

『町内会のみなさんこんにちは』 いつも町内会の活動にご協力いただき感謝いたします。

第5号	日の出町内会かわら版	発行日 2024年3月
不定期発行		日の出町内会広報部

南30条のバス停付近は、昭和37年に郵政官舎（通称郵政アパート）が4棟、のち3棟増設された時代（現在のスバル藻岩店、スズキ自動車藻岩店の裏側一帯です）、地域の人口が一気に増えました。住所的には他の町内会になりますが、その当時は南29条のセイコーマートの向かいの建物（今は倉庫となっている建物）には、マルマン百貨店（八百屋、魚屋、肉屋を中心にした寄合市場）があり、南署の前の現在の「フォーエルのお店」は、同時期に渡辺百貨店（同市場）が競い合っていて、両店ともに同様の品ぞろえで賑やかに繁盛していました。

小学生だった頃の私は、買い物はいつもどちらかで普段の食卓はもちろん、菓も、運動会の時の足袋や鉢巻き、遠足のおやつも、と大体はそろったものです。楽しみといえば、年末恒例の百貨店の歳末大売出しです。福引抽選会があり、ワクワクしてくじ引きをしたのが楽しい思い出として今も残っています。最盛期は昭和47年くらいまでだったでしょうか、その頃から車社会が進み、郊外の大型スーパーへ消費動向が変化していき徐々に姿を消していきました。南30条発大通り4丁目行ノンストップバス（特急バス）のようなのがあり、もちろん一般の方も乗れたのですが、今改めて思うと郵政職員直通バスのような感じでした。郵政官舎は昭和36年に4棟、後7棟に増え1棟あたり24世帯×7=168世帯で約600人の団地となりました。平成10年を過ぎた頃から徐々に空き家が目立つようになり、今では官舎はすっかり姿を消して、分譲の戸建ての街へと変化しています。

百貨店の出来る前の近所の記憶を頼りにして思い出すと、南29条のセイコーマートは以前は米屋さん（玄米がおいてあり精米をしてくれる米屋）でした、後お酒を扱うようになり1970年代後半今のようにチェーン店に加盟しました。又すぐお隣は現在マンションになっていますが昭和33年頃までは養鶏場がありました、それほど規模は大きくない（鶏舎は1棟）50～60羽いたでしょうか、それでも当時小学生低学年の私は毎日「コケッコ」の鳴き声が響いていたのを覚えています。距離にして直線で30メートルほど。その後は建屋を改装し、昭和40年頃から昭和60年ころまで「高砂寿司」がありました。このお寿司屋さんと米さんの間には「南の湯」という銭湯があり、まだ家庭の風呂が普及していなかった頃は多くの方が利用されたのではないのでしょうか。

当時は市の中心部に行くことを「街に行く」という表現でした。子供たち同士では、「昨日街に行って丸井さん（丸井デパートのこと、現在は丸井

『町内会のみなさんこんにちは』 いつも町内会の活動にご協力いただき感謝いたします。

今井札幌店) に行ってきた」、お前んち「いいなあ～」という具合です。60歳以上の方はご存じかもしれませんが、三越デパートは「三越に行ってきた」ですが、丸井に行ってきたとはいいません、地元愛なのでしょうか「丸井さんに行ってきた」といいました。今では両方とも伊勢丹グループになり時代の変化を感じますね。当時のデパートは「何が一番かって？」・・・それは子供の頃は屋上の遊園地に、大食堂のお子様ランチ（世界の旗が真ん中に立ててある）、丸井今井の1階入口あった一口大の小さなおまんじゅうのような「とうまん」と呼ばれていたお菓子が土産の定番で、出来上がるまでは全自動の機械で出来る菓子は「カッチャン、カッチャン・」という音と共に出来上がってくる様子を、いつまでも見ていたのを思い出します。



昭和 26 年の札幌駅

戦後から 40 年代前までは小売店はみな個人商店であり、富山の菓売りをはじめ、物売りが往来を闊歩していました。子供の楽しみは、自転車を引っ張ってくる「紙芝居」、ブドウ糖の四角い菓子をくりぬき上手にできるとおまけが、水飴売り、串団子売り、米を持参し「爆弾と称する米菓子」は大きなドーンという音と供に何倍にも膨らんで、魅力的な楽しみが多くありました。



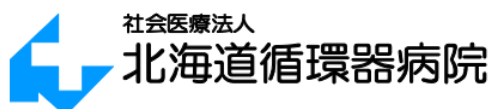
昭和 47 年五輪橋渡り初め、現コナミススポーツ手前。右奥が屋外競技場になり、左にアイスアリーナが建設される。その前は在日米軍のゴルフ場でした。



札幌祭でにぎわう中島公園
(中央区・昭和50年)

以前は豊平館、子供の国、野球場、道立スポーツセンターがありました。現在は豊平館のみ残り、市体育センター、キタラができています。公園内の池には今もボートがありますね。

次回は、町内会に 40 年以上住んで見える方の、当時を語る座談会の様子を紹介



昭和の時代やこの地域の昔の写真などをお持ちの方がいらっしゃいましたら、町内会までお知らせ下さい。ご協力のほど、よろしくお願いします。

かわら版は「北海道循環器病院」のご協力で発刊しています